

公益財団法人岩手県文化振興事業団第17回理事会議事録

1 開催日時 平成26年3月7日(金) 午後1時30分～

2 開催場所 サンセール盛岡「桐華」

3 出席者 理事総数 9名
出席理事 9名

理事長	池田 克典	理事	柴田 和子
理事	齋藤 哲子	理事	熊谷 常正
理事	原田 光	理事	中山 敏
理事	齋藤 信之	理事	菊池 和憲
理事	渡邊 和男		

監事総数 2名

出席監事 1名

監事 久保隆男

4 議長 理事長 池田 克典

5 決議事項

議案第1号 平成25年度事業計画の変更について

議案第2号 平成25年度収支補正予算について

議案第3号 平成26年度事業計画について

議案第4号 平成26年度収支予算について

議案第5号 公益財団法人岩手県文化振興事業団就業規程の一部改正について

6 議事の経過の要領及びその結果

定刻理事長が議長席に着き開会を宣し、本理事会は定款第35条の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立した旨を告げ、次の議案の審議に入った。

(1) 議案第1号 平成25年度事業計画の変更について

議長は議案第1号を上程し、埋蔵文化財センター副所長及び博物館副館長より別紙議案書に基づき説明がなされ、その賛否を諮ったところ、全員異議なくこれを承認した。

(2) 議案第2号 平成25年度収支補正予算について

議長は議案第2号を上程し、総務部参事より別紙議案書に基づき説明がなされ、その賛否を諮ったところ、下記の質疑等を経て、全員異議なくこれを承認した。

【理事】

埋文センターの臨時雇賃金が、減額補正されている。これは、発掘調査面積の減、または、沿岸部での作業員が確保できなかったもの、どちらによるものなのか教えていただきたい。

【埋文センター参事】

減額補正は、事業量の減に係る発掘調査面積の減によるものである。

(3) 議案第3号 平成26年度事業計画について

議長は議案第3号を上程し、各事業所より別紙議案書に基づき説明がなされ、その賛否を諮ったところ、下記の質疑等を経て、全員異議なくこれを承認した。

【理事】

埋文センターの室内整理のうち、野田村からの受託事業は、これまでにない形式のようである。受託の経緯を教えていただきたい。

また、博物館の指定研究機関認定に係る申請については、博物館の社会的地位に繋がるものである。実現に向けて頑張っていたいただきたい。

そして、歴史部門に係る近現代の展示内容は、館内の学芸員の案に基づいた展示構想によるという説明があった。しかしながら、近現代というのは、捉え方が難しい印象がある。展示案に理解が得られているというような、たとえば、館外の近現代に係る研究者から指導を受ける、ということなどは考えているのか教えていただきたい。

【埋文センター首席文化財専門員】

本事業に係る野田村の発掘調査は、野田村に担当者が不在であるため、平成24年度に県教委主体で実施されたものである。室内整理についても、同様に担当者が不在であるため、それが宙に浮いたままとなっており、この度当センターで受託するものである。

【博物館副館長】

近現代の展示内容については、素案の段階である。理事の意見を参考に検討してまいりたい。

【理事】

総務部事業のうち、事業団プレゼンツ事業とは、具体的にどのような内容なのか教えていただきたい。

【総務部参事】

事業団プレゼンツ事業とは、事業団4事業所等の連携による事業である。初期は、埋蔵文化財センター及び博物館の合同展であったが、昨年度より美術館及び県民会館が参加し、事業団の事業のアピールやイメージアップにも資するため、合同で事業を実施している。

【理事】

良い事業のようなので、期待している。

【理事】

これからは、横の連携が重要だと思う。埋文センターの体験教室は、具体的な方向性が見えてこない。埋蔵文化財とは、子供達に直接的に関わるものではないので、具体的にテーマを提示し、博物館との繋がりを検討するなどしてはいかがだろうか。同様に、美術館のアウトリーチ事業なども、総合的な繋がりの必要性を感じる。どのように考えられているのか教えていただきたい。

【埋文センター副所長】

体験内容は、施設全体を使い、出土した土器の見学、土器の接合、疑似測量体験など、発掘調査に近い状況を再現し、体験していただく内容である。横の連携についても、合同展のように、博物館と合同で事業を展開し、

近隣の小学校に声をかけ、一連の展示資料を見ていただいている。

【理事】

埋文センターの体験教室は、理事会で訪問したことがある。対象となる子供たちに対して、その事業をどのように浸透させるかといった構想があつてよいと思う。例えば、博物館の企画展テーマを関連させるなどといった、目標を掲げるとよいのではないだろうか。岩手県の歴史・文化を広げられるような事業を展開してほしい。

【理事】

どのように事業を具体化していくか、あるいは、事業団プレゼンツ事業においても、統一テーマが掲げられるのであれば、そのテーマの基に各事業所等が事業を展開できるようにするなど、それぞれ研究したいと思う。

(4) 議案第4号 平成26年度収支予算について

議長は議案第4号を上程し、総務部参事より別紙議案書に基づき説明がなされ、その賛否を諮ったところ、下記の質疑等を経て、全員異議なくこれを承認した。

【理事】

埋文センターの臨時雇賃金が、当初予算と比較して約1億5千万円の増額となっている。金額に対応する作業員の確保は、可能な範囲なのか。

また、復興事業に係る賃金単価が上がっているようである。提示された当初予算は対応できているのかどうか教えていただきたい。

【埋文センター副所長】

作業員の確保については、がれき処理が終盤となり、これらに関わっていた方たちが、来ていただけることを見込んでいる。なお、発掘作業は順々に開始することとしており、一度には実施しない。さらに、広域に作業員をバスで運ぶことを予定している。

また、賃金単価は内陸よりも高く設定して積算し、計上している。

(5) 議案第5号 公益財団法人岩手県文化振興事業団就業規程の一部改正について

議長は議案第5号を上程し、総務部参事より別紙議案書に基づき説明がなされ、その賛否を諮ったところ、全員異議なくこれを承認した。

7 報 告

(1) 職務執行状況について

職務執行状況について、別紙資料に基づき、理事長並びに業務執行理事3名より報告があり、全員意見なくこれを了承した。

(2) 平成25年度岩手県出資等法人運営評価レポートについて

平成25年度岩手県出資等法人運営評価レポートについて、別紙資料に基づき、総務部参事より報告があり、全員意見なくこれを了承した。

以上をもって議事の全部の審議を終了したので、午後2時50分閉会を宣し、解散した。

上記議事の経過の要領及び結果を明確にするため、理事長及び監事が記名押印する。

平成26年3月14日

公益財団法人岩手県文化振興事業団

議 長

印

監 事

印